

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 25 年 4 月 25 日 (2013.4.25)

【公開番号】特開 2012-97506 (P2012-97506A)

【公開日】平成 24 年 5 月 24 日 (2012.5.24)

【年通号数】公開・登録公報 2012-020

【出願番号】特願 2010-247437 (P2010-247437)

【国際特許分類】

E 0 5 B 65/32 (2006.01)

【F I】

E 0 5 B 65/32

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 3 月 12 日 (2013.3.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両のドアをボデーに対して閉じた状態で保持可能であるよう適合され、ラッチとボールを有するラッチ機構と、

ドアの施錠状態を成すことが可能で、前記ボールと連係するオープンレバーを有し、前記ラッチ機構と組み合わせられるロック機構と、

前記ラッチ機構のラッチハウジングに設けられ、前記ボールを初期位置に向けて付勢するボールスプリングのコイル部を軸支するラッチ側軸支部と、

前記ロック機構のロックハウジングに設けられ、前記オープンレバーを初期位置に向けて付勢するオープンレバースプリングのコイル部を軸支するロック側軸支部とを備え、

前記ラッチ側軸支部の少なくとも一部が前記ロック側軸支部に重複して、前記オープンレバースプリングが抜け止めされている車両用ドアロック装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の車両用ドアロック装置において、

前記ロック側軸支部と前記ラッチ側軸支部は偏心配置されており、前記ロック側軸支部にて、前記ボールスプリングが抜け止めされている車両用ドアロック装置。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の車両用ドアロック装置において、

前記ラッチ側軸支部は、前記ボールスプリングのコイル部の内周に当接可能で前記ボールスプリングのコイル部を支持する第 1 筒部と、前記第 1 筒部の前記ロック機構側にて前記ロック側軸支部に対向する対向面と、前記対向面から前記ロック機構側に向けて突出する第 2 筒部とを有し、

前記ロック側軸支部は、前記オープンレバースプリングのコイル部の内周に当接可能で前記オープンレバースプリングのコイル部を支持するとともに前記第 2 筒部の中心線と同一である中心線を有する筒部と、前記筒部に設けられ前記第 2 筒部が嵌合可能な嵌合孔と、前記筒部の先端側に位置し前記ボールスプリングのコイル部の少なくとも一部に当接可能な先端面とを有する車両用ドアロック装置。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の車両用ドアロック装置において

前記ラッチハウジングと前記ロックハウジングを前記第 2 筒部の中心線の位置にて連結

する連結部材を備え、

前記ロック側軸支部が、前記筒部の外周にて前記オープンレバを回転自在に支持している車両用ドアロック装置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の車両用ドアロック装置において、

前記オープンレバースプリングは、そのコイル部の一端から延びて前記オープンレバーに係合する一端部と、前記コイル部の他端から延びて前記ロック機構の前記ロックハウジングに設けた係止部に係合する他端部を有していて、

前記オープンレバーは、前記ロックハウジングと前記オープンレバースプリング間に配置されている車両用ドアロック装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

(課題を解決するための手段)

本発明は、上記した目的を達成すべく、

車両のドアをボデーに対して閉じた状態で保持可能であるよう適合され、ラッチとボールを有するラッチ機構と、

ドアの施錠状態を成すことが可能で、前記ボールと連係するオープンレバーを有し、前記ラッチ機構と組み合わせられるロック機構と、

前記ラッチ機構のラッチハウジングに設けられ、前記ボールを初期位置に向けて付勢するボールスプリングのコイル部を軸支するラッチ側軸支部と、

前記ロック機構のロックハウジングに設けられ、前記オープンレバーを初期位置に向けて付勢するオープンレバースプリングのコイル部を軸支するロック側軸支部とを備え、

前記ラッチ側軸支部の少なくとも一部が前記ロック側軸支部に重複していて、前記オープンレバースプリングが抜け止めされている車両用ドアロック装置に特徴がある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

この場合において、前記ロック側軸支部と前記ラッチ側軸支部は偏心配置されており、前記ロック側軸支部にて、前記ボールスプリングが抜け止めされていることも可能である。また、前記ラッチ側軸支部は、前記ボールスプリングのコイル部の内周に当接可能で前記ボールスプリングのコイル部を支持する第 1 筒部と、前記第 1 筒部の前記ロック機構側にて前記ロック側軸支部に対向する対向面と、前記対向面から前記ロック機構側に向けて突出する第 2 筒部とを有し、前記ロック側軸支部は、前記オープンレバースプリングのコイル部の内周に当接可能で前記オープンレバースプリングのコイル部を支持するとともに前記第 2 筒部の中心線と同一である中心線を有する筒部と、前記筒部に設けられ前記第 2 筒部が嵌合可能な嵌合孔と、前記筒部の先端側に位置し前記ボールスプリングのコイル部の少なくとも一部に当接可能な先端面とを有することも可能である。また、前記ラッチハウジングと前記ロックハウジングを前記第 2 筒部の中心線の位置にて連結する連結部材を備え、前記ロック側軸支部が、前記筒部の外周にて前記オープンレバを回転自在に支持していることも可能である。また、前記オープンレバースプリングは、そのコイル部の一端から延びて前記オープンレバーに係合する一端部と、前記コイル部の他端から延びて前記ロック機構の前記ロックハウジングに設けた係止部に係合する他端部を有していて、前

記オープンレバーは、前記ロックハウジングと前記オープンレバースプリング間に配置されていることも可能である。